

果試ニュース

第16号 平成14年3月



愛媛果試第14号

平成13年産温州みかんは当初からかなりの豊作が予想され、奇数年に価格低迷が繰り返されていることから、国は初めて需給調整対策に取り組み、行政、農業団体、生産者が一体となって特別摘果などに取り組んできた。この結果、国が適正とした生産量にほぼ抑えることができ、さらに高品質果実が生産できたのであるが、肝心の卸売り価格は従来の表年と変わらない水準で低迷し、再生産ができる価格とはほど遠いものとなってしまった。このような厳しい中で、いかに所得を確保していくか前向きな対応が必要である。マルチによる高品質果生産、それぞれの地域で戦略品種による有利販売等がその対策の中心になると考えられ、試験場としても出来る限りのバックアップをしてゆきたい。

今回の果試ニュースは、愛媛果試第14号、キウイフルーツのかいよう病、宮内伊予柑の中間台木利用の3篇を掲載した。「愛媛果試第14号」は、昨年登録申請を行った新品種で、4月頃の有利販売が期待される。「キウイフルーツのかいよう病」は平成12年に本県で初めて確認された病気で、現在は中予地域の一部でみられるだけであるが、県下に拡散しないように注意する必要がある。「宮内伊予柑の中間台木利用」は需給バランスが崩れている伊予柑園を新しい戦略品種に更新するために、穂品種と中間台の組み合わせの適正について調査を行なったものである。このような試験は、相当の規模と年月を要するものであるが、緊急性を要するため、中間結果を掲載することとしたので、参考にしていただきたい。

場長 別府英治